

# 経営革新研究会

経営革新等支援研究会のリーダーを担当しております賀長哲也です。リーダーになって、ちょうど2年がたちました。この間、本研究会には20名の講師の方にご登壇いただき、延べ300名の会員の方々にご参加いただきました。本研究会では、「知らなかったことが知れた」「実務に役立つ内容だった」「ほかの会員と交流が出来た」といったお声を頂戴することが出来ました。これまで、講師としてご登壇いただきました講師の方々、また、ご参加いただきました皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

この診断京都をご覧いただいている皆様の中には、まだ経営革新等支援研究会にご参加いただいたことのない方もいらっしゃるかと思います。

今回は、そのような方に少しでもどんな研究会かご興味を持っていただけるように、今年6月に開催された研究会についてご報告させていただきたいと思っております。

6月の経営革新等支援研究会は17名の会員の方にご参加いただきました。

京都社会保険労務士法人の代表で社会保険労務士の山崎正樹様を講師にお迎えし、「2018年度対応 働き方改革に活かす助成金セミナー」のテーマでご講演いただきました。

人材不足が今後ますます加速する中で、今後どのように対応していけばよいのかといったことは多くの方の興味関心があるところかと思っております。

山崎先生からは、「国が雇用に関して考えている方向性はすべて助成金の要件を確認すればわかる」という視点で、今話題の働き方改革に関する各助成金のポイントを教えていただきました。

例えば、今いる人材で生産性を向上させるために残業を減らすことに寄与する取り組みに支給される「時間外労働等改善助成金」は、外部専門家のコンサルティング費用が対象になっているなど、診断士にも関係する内容で、人材を育成し、企業を活性化するポイントを助成金という視点で学ぶことが出来た貴重な機会となりました。

最後に山崎先生は、ただ助成金を受給するお手伝いをするのではなく、今後企業の課題となる労働環境の整備や労働問題の解決を、助成金を活用することで実現していきたいと考えておられることをお話しされ、その姿勢から、社会保険労務士としての使命、プロフェッショナル精神を感じることが出来、感銘を受けました。

私自身、中小企業診断士の使命といったことについて改めて考える機会となり、弊事務所の経営革新を考えるうえで、大きな気づきを得ることが出来ました。

参加した診断士からも「実用的な内容で企業に提案できる」「自社でも使うことができる内容だった」など、大変満足だったとご好評をいただきました。講師の山崎先生には、講演後の交流会にもご参加いただき、和気あいあいと楽しく交流できたことも参加者に喜ばれました。

今後も企業内、独立問わず、会員診断士の皆さまにとって、よりお役に立てる研修会にできるよう取り組んで参りますので、奮ってご参加下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。  
(賀長 哲也)

<経営革新等支援研究会>

開催日：毎月 第2水曜日 19時～20時

場 所：都度決定

(オフィスワン四條烏丸 又は 診断協会事務所)



## 支援機関の診断士たち⑨



**成岡 秀夫**  
(なるおか ひでお)

株式会社成岡マネジメントオフィス  
代表取締役  
京都府事業引継ぎ支援センター  
統括責任者

平成28年の4月に京都商工会議所の1階に新設された「京都府事業引継ぎ支援センター」。経済産業省、中小企業庁の管轄の元、近畿経済産業局が窓口になり京都府では京都商工会議所が委託を受け、中小企業の事業承継、事業引継ぎを一元的に推進する部署ができました。現在のメンバーは、会議所の専任職員が3名。事務担当の女性が1名。統括責任者の成岡とサブを担当する会計士のSさんとの総勢6人体制。その中のUさんは創業の担当がメインになっています。

中小企業の後継者がいない、いても承継しない企業の存続やマッチングを担当します。国はこの10年を事業承継、事業引継ぎの重点期間と定め、税制の改正を含めなりふり構わず事業所の廃業防止に乗り出しました。団塊の世代の代表者が70歳になり、後継者がいないまま廃業

に追い込まれる中小企業が増え出しました。

創業より廃業が多くなり、雇用が失われ経済の活力がなくなる。健全に経営され黒字で、従業員も数名以上在籍し、地域経済に貢献している中小企業が地域からなくなっていく。なにより代表者が永く継続してきた技術の伝承も途絶える。事業引継ぎがうまく行われ、従業員の雇用も守られ、何より地域経済への貢献が継続、存続されるなら、これにも増して喜ばしいことはありません。

しかし、中小企業の経営を一族同族以外に承継するのは、難しい。第三者に承継する、外部の企業に引き継ぐなどは、最近M&Aなどという言葉が流行っているが、現実にはそう簡単なことではありません。

我々事業引継ぎ支援センターのメンバーは、日々格闘しています。それも、数字で判明する世界ではなく、人間関係や親子の確執、代表者と従業員との意思疎通など、ヒューマンな要素で決まることが多いのです。引継ぎのあとのフォローも重要です。

事業承継、事業引継ぎにセオリーはありません。すべての案件は手作りで、100社100様の対応が求められます。理屈ではない世界を、いかにさばるか。経験と人間性が求められます。しばらくは案件と格闘する毎日が続くでしょう。それも、天命と考えれば楽しい。お役に立てれば幸いです。